

HELLO!!!

「ふるさと」って何ですか？



外国人指導助手
ドレーン・アルント

Doreen Arndt

「ふるさと」って何ですか？

というか、わたしの「home」はどこですか？

わたしは1976年に旧東ドイツで生まれました。東海大学への交換留学とJETプログラムのおかげで、日本で何年も過ごした経験があります。2007年にドイツに帰ったときは、北ドイツにあるハンブルクという都会で暮らしていました。しかし仕事がどんなに面白くても、給料がどんなに高くても、たくさんの友人は日本にいたのでわたしはとても不幸せになり、内子町が恋しくてホームシックになってしまいました。

気付いたのは、ドイツ人であるのに、ドイツでの生活が合わなくなってきたということです。わたしはどこに行くべきか、わたしの居場所はどこなのか、わたしのhomeはどこなのか、迷ってしまいました。

じゃあ、わたしのhomeはどこですか？

生まれた所ですか？

生まれた国は1990年に消滅しました。

住んでいる所ですか？

あのとき生活していたハンブルクの雰囲気は、北ドイツの天気と一緒に冷たかったです。

滞在が一番長い所ですか？

ベルリンも日本も同じくらい長く住んでいるので、比べられません。

両親が生まれた所ですか？

お母さんとお父さんが生まれた所へ一度も行ったことがありません。おばあさんたちとおじいさんたちも早くに亡くなったので、残念ながら祖母の記憶もありません。

一番落ち着くところですか？

ベルリンで家族と一緒に過ごす時間は快適で最高ですが、内子町で友人と過ごす時間もとても幸せです。

Homeは人それぞれの主観的な感覚です。だからhomeは具体的な場所もなく、手づかめなくて、色も形もありません。Homeは、地方、景色、村、町、都会、国民、言語や宗教などである可能性もあります。Homeはその人の暮らしすべてです。また、homeは香りや味や音への思い出の場合もあります。

グリム兄弟は「homeは生まれた国または永遠に滞在する地方である」と言っていました。そうすると、わたしにとってhomeは永遠に滞在したいところです。前回住んでいたときも、今も、内子町で過ごす日々はとても充実して、幸せで、心から落ち着けます。雛太鼓や伊予万歳に参加して、長年勉強した日本語を生かして、内子町のためにやりがいを持って仕事をしています。内子町のお役に立てていると感じます。内子町への帰属意識が強くて、わたしは本当に、自分は内子町の一部だと感じられます。

しかし、どんなに内子町が好きであっても、わたしは生まれたときから死ぬまでドイツ人です。だからドイツ人として、大好きなhome内子町で一生暮らしたいと思います。



わたしの大切な旧東ドイツのパスポート④と身分証明書⑤

※JETプログラム=日本の中学・高校生の外国語教育の一環として、外国の青年を日本に招く事業



事務局 内子分庁3階
 電話 (0893)44-2114
 FAX (0893)44-6137
 E-mail kokusai@town.uchiko.ehime.jp
 ホームページ <http://utia.jp/>

モザンビークからの 研修生が、内子町を訪問

※1 松山ESD促進実行委員会の研修生として来県しているティトシュ・ユアムスさんが10月16日、内子町を訪れ、研修プログラムを担当したNPO法人えひめグローバルネットワーク(以下、GNW)の代表・竹内よし子さんと共に、和紙工房の見学や内子小学校での出前講座などを行いました。

和紙工房の見学

モザンビークで、バナナの茎を原料とした紙漉きの方法を指導しているティトシュさん。五十崎地区で手漉き和紙の工場などを見学し、目を輝かせていました。

「素晴らしい和紙づくり。なぜ若い日本人は後を継がないのですか？」との質問に、わたしたちは「その素晴らしさを知らないことが一番の原因ではないでしょうか」と答えるばかりでした。しかしその一方で、(株)五十崎社中として会社を起こし、伝統ある(株)天神産紙工場で新しいデザインの和紙を漉いて、世界に発信しようと日々努力している人々がいることに感動しました。

紙すきの技術士と



それぞれの紙の違いに興味深く観察

内子小学校で出前講座



内子小学校では6年生を対象に、ティトシュさんがモザンビークの事情などを伝える「出前講座」を行いました。

同校は、モザンビークへ約130組の机やイスを寄贈する計画を立てています。ティトシュさんは寄贈された机やイスがどう役立てられるのかということや、世界の動き、モザンビークの状況などを話しました。また竹内さんは、最近のニュースを話題に、同国との関係やフェアトレード事業など、GNWの取り組みを説明しました。

児童からは「日本に来て一番驚いたこと」の質問が。ティトシュさんは「ロイヤルアイゼン(北条市の食品総合リサイクル工場)のような、給食やスーパーの残飯を堆肥化する仕組み」と答えました。モザンビークの面積は日本より広いものの、機械が無く、農業が発展していないため、限られた農地で農業が盛んな日本に驚いたそうです。

今回のように、他団体が企画・運営する研修生から学ぶことは多くあります。今後も内子町国際交流協会では、横の連携を大切にしながら、明日の「ゆうていあ」を考え、実行していきたいと思えます。

※1 ESD= Education for Sustainable Development (持続可能な開発のための教育) の略

※2 フェアトレード=公正貿易。途上国の生産者に公正な賃金や労働条件を保証した価格で商品を購入することで、途上国の自立や環境保全を支援する国際協力の新しい形態